

令和4年度の具体的な学校経営目標・計画

岡山県立玉島商業高等学校

(A:目標を上回った B:ほぼ目標どおり C:目標を下回った)

具体的な施策	関係分掌	現状（昨年度末の状況）	具体的計画	今年度の達成基準	自己評価（中間）		自己評価（最終）	
					達成状況	評価	達成状況	評価
1 様々な行事を通して、生徒の自主性を育み、志を醸成することが出来る機会を設定する。	1年団	・欠席も少なく毎日登校している。 ・入学時にオリエンテーションで説明を受けているが具体的なイメージができていない。	・学年の重点目標で、「人を思いやる」「先に挨拶をする」「時間を守る」を示し目標達成を目指し取り組む。 ・しっかりと計画準備をして、学校行事がスムーズに効果的に行えるようにする。	・先に気持ちの良い、さわやかな挨拶ができる。 ・集会などに遅れずにきちんと集まることができる。	・入学時に比べ、きちんと挨拶ができるようになっている。 ・集会では遅れずに集まり、自主整列ができていた。	B	・きちんと笑顔で気持ちよい挨拶ができるようになっている。 ・集会では遅れずに集まり、自主整列ができていた。	A
	2年団	・1年次の皆勤生徒数69人(48.3%)と少ない。 ・1年次のF祭(体育の部・文化の部)は規模の縮小があったが、高校に入学して行事に参加することができている。 ・各種検定(全商)の取得率が思ったより低い。 電卓2級111人(77.6%)・1級普通計算125人(87.4%) 英語3級107人(74.8%)・2級8人(5.6%)、情報処理2級91人(63.6%) 簿記2級82人(57.3%)、商業経済3級123人(86.0%)	・資格取得に向けて家庭学習の充実を図り、苦手意識を持つ生徒に対してクラスを問わず、学年で計画的に指導することを目指す。 ・部活動や学校行事、社会貢献活動などに積極的に取り組むように促す。	・コロナ禍ではあるが、感染症対策を十分にを行い学校行事等に積極的に参加でき、1年からの継続皆勤生徒40%以上。 ・全商検定1級に合格し、計画的に家庭学習ができる態度の育成。不合格になっても次回挑戦する意欲を養う。	・4月22日(金)学年行事の一日旅行を143名中15名の欠席者(濃厚接触と当日体調不良)がいたが真庭市のヒルゼン高原センターで実施する事ができた。 ・全員が受験した全商1級原価計算の合格者数53名(合格率37.6%)と成果が残せなかった。	B	・F祭(体育の部)では応援のモザイクアートはどのクラス協力の跡が感じられるものであった。またF祭(文化の部)生憎の雨ではあったが成果のある販売実習になった。 ・コロナ禍の修学旅行は関東方面42名北海道方面44名不参加者6名であったが無事実施することができた。	A
	3年団	・入学してから諸行事が中止や縮小となり、自主性を養う機会が少ない。 ・特に社会貢献活動は、学年全体での活動が実施できていない。	・F祭などの学校行事で、3年生がリーダーシップを発揮できるよう、協働の気持ちやコミュニケーションを取りながら、指導応援する。 ・自主的に社会貢献活動に参加できるように的確な情報提供や広報活動を行う。	・学年団行事を生徒主体で複数回実施することができる。 ・F祭などの学校行事を3年生がリーダーシップをとり、成功裏に導く。 ・社会貢献活動に自主的に参加する生徒が増加している。	・5月に3学年行事、6月に1日旅行を実施することができた。 ・夏休みに多くの生徒が登校し、F祭の準備にあたる。社会貢献活動(朝市他)への参加者が増加している。	A	・学年行事として、5月と2月(予定)の2回実施することができた。 ・修学旅行は中止となり残念だったが、6月に1日旅行に切り替えて実施し、よき思い出となった。 ・F祭ではリーダーシップを発揮し、良いF祭であったとお褒めの言葉を多くいただいた。 ・社会貢献活動、特にたましま朝市へ多くの生徒が自主的に参加した。	A
	教務課	・新型コロナウイルス感染症の影響で、この2年間は避難経路の確認、ビデオ学習などにとどまり不完全実施である。	・玉島幼稚園との合同避難訓練を行い、防災意識の向上を図ると同時に地域社会の一員として責任ある行動や地域の安全活動への積極的な参加等安全・安心な社会づくりに貢献する共助の態度を育てる。	学校自己評価アンケート項目(肯定度) 「学校は、計画的に防災に関する避難訓練や交通指導などの安全教育を実施し、危機管理を行っている。」 生徒R4 90.0%以上 教職員R4 95.0%以上	合同避難訓練 日時:令和4年5月24日(火)1~4限 特別活動 防災訓練振り返り 日時:令和4年5月25日(水)5~6限 目標:自分の身を守る対応行動を習得する。地域の安全活動に参加し社会に貢献する態度を身に付ける。身近な生活における防災意識の向上。チームワーク力の向上。社会生活に必要な共助心を養う。	A	学校自己評価アンケート項目(肯定度) 「学校は、計画的に防災に関する避難訓練や交通指導などの安全教育を実施し、危機管理を行っている。」 生徒92.6% 教職員100.0%	A
	生徒課	・コロナ禍で行事が計画通り進まない。 ・多くの生徒で役割を分担しそれに携わることによって人とのつながりを経験することを意識した取り組みが始まっている。(F祭・委員会活動等) ・規範意識を持たせる。(交通マナー・人権意識など)	・遙照山登山や体育祭・文化祭を通して、他者と関わり自身の役割を理解させクラスで協力をさせる。 ・交通マナー・人権意識等社会人として必要な力を養えるように粘り強く指導していく。 (講演会・LHR等あらゆる場面で) ・昨年経験をしていない場面が多くゼロから作り上げることになる。新しい玉商への機会にしたい。	行事などを各クラス・各学年・学校全体と、先輩から後輩へ様々な取り組みを伝え、新たな1歩を進みたい。コロナで作り直すからこそ、取り組めることもある。 ・様々な場面で生徒会は、学校のリーダーとして活動した。 各種委員会は各活動をしているが、新しい取り組みへのアプローチが必要である。 ・規範意識を持たせるために人権教育委員会や教育相談と連携をはかり把握に努める。	活動に制限がある中で部活動・生徒会行事・ボランティアなど新しい取り組みや枠組みへの取り組みがなされている。 コロナにより、人権意識も考える機会になり他人のことを自分に置き換える力についてはない。いじめ問題などには良い影響を与えと期待している。	B	本年度は、昨年以上に行事を行い、多くの出来事を体験することができた。生徒も教員もゼロからスタートで戸惑いながら良い経験を重ねている。 コロナだけでなくSNSに絡む問題等、「人権とは何か」を考え、今を生きる力を講演会や普段の指導を通じて理解している。	B
進路指導課	・進路希望調査を実施してもクラスに複数名の進路未決定者がいる。 ・進路実現に向けて早期の取り組みがなかなかできていない。	・オープンキャンパスの案内を進路掲示板に掲げ、クラスへも積極的に案内する。 ・進路情報をクラスルーム等を利用してタイムリーに発信する。 ・進路ガイダンスや進路講演会を計画的に実施する。	・進路希望者はオープンキャンパスに複数回参加している。 ・就職希望者は応募前見学に複数回参加している。 ・1・2年生の最後の進路希望調査では「未定」が10%以下になる。	コロナの影響もなく、オープンキャンパス・応募前見学の参加が予想以上にできた。また、リモートオープンキャンパス・応募前見学の実施をする学校・企業があったが、昨年度から準備ができ、十分な対応ができた。	B	2年生の3学期に進路別の進路指導課面談を実施したことで、3年生の未定者の数が減少した。また、進学・就職も県内志向のため、オープンキャンパスや応募前職場見学へ積極的に参加した。	B	
2 学習活動に意欲を持って取り組むことができる生徒を育成する。	GIGAスクール推進室	昨年度は貸し出し用iPadを授業に活用する場面もあったが、学校全体としてはiPadを授業で活用することは定着しきれていない。	○iPadの文具化 ・iPadの適切な管理と操作が不安な生徒へのフォローの充実。 ○1人1台端末を有効活用した授業づくりの後押し ・学力向上委員会と連携し、iPadを有効的に活用した授業づくりの推進をする。	学校自己評価アンケート項目(肯定度) 「学校は、ICTの利活用・グループ活動・発表などを取り入れ魅力的な授業を行っている。」 生徒(83.0%)保護者(83.0%)教職員(90.0%)	・1年生対象にiPadの設定および生徒研修の実施 ・全学年対象にデジタルシチズンシップ教育の実施(1学期に4回実施) ・保護者対象に1人1台端末説明会の実施(1学期に2回実施)	B	学校自己評価アンケート項目(肯定度) 「学校は、ICTの利活用・グループ活動・発表などを取り入れ魅力的な授業を行っている。」 生徒(92.6%)保護者(92.8%) 教職員(100%)	A
	国語科	・文章を書く事への抵抗感はないが、漢字の読み書きの力・基本的な語彙力、表現力が不十分である。 ・新聞投稿や、新聞作成、短歌や俳句のコンクールの応募には積極的に取り組む。良寛椿短歌コンクールでは特別賞をいただき、伊藤園新俳句コンクールでは4月現在2名が二次審査を通過している。	・漢字などの小テストでは、年度末までに達成したい得点率を各自で設定させ、目標を明確にさせ向上心を持たせる。 ・国語表現では新聞作成、短歌作成、他のすべての科目では新聞投稿や俳句コンクールなどへの応募に取り組ませ、表現活動への意欲関心を向上させる。	・生徒は漢字小テストの目標得点率を設定し、それに向かって努力している。 ・生徒は意欲的に作品作りに取り組んでいる。	・第2回漢字共通テストが9月実施のため、成績の推移はわからないが、生徒は意欲的にドリルに取り組んでいる。 ・「朝読」には熱心に取り組んでおり、自分の本を持参する生徒が多いが、図書室の本を借りる生徒もいた。 ・暗唱は2年生が1回、作品応募には全学年が2種以上取り組み、新聞コンクールでは優秀賞1名、新俳句コンクールでは佳作2名が入賞した。	B	・9月の第2回漢字テストで30点以上だった生徒は4月の第1回に比べて倍増した。 ・「朝読」には熱心に取り組んでおり、自分の本を持参する生徒が多いが、図書室の本を借りる生徒もいた。 ・暗唱は2年生が1回、作品応募には全学年が2種以上取り組み、新聞コンクールでは優秀賞1名、新俳句コンクールでは佳作2名が入賞した。	B
	地歴公民科	・中学校での地歴公民科に対するマインドセット(知識理解偏重の授業) ・2・3年生はマインドセットが変わってきている(授業アンケートより)	・3観点をふまえた授業の実施 ・Zoomなどを活用して学校外とつながる授業の実施	・3観点を踏まえた指導と評価の一体化の推進ができていない ・学校外とつながる授業を学期に1度実施できている	・リフレクションシートを活用して3観点の適切な評価の実施へ取り組んでいる ・1学期も実現できなかったためカリキュラムの見直しが必要である	B	・リフレクションシートを活用して3観点の適切な評価の実施を引き続き取り組んでいる ・2学期も実現できなかったためカリキュラムの見直しが必要である	B
	数学科	・数学に苦手意識を持っている生徒が多く、「理解したい」とか「より高度な学力を身につけたい」と思わない生徒が相当数いる。また、看護系などの進路を希望し、数学が苦手だが必要な生徒がおり、学習内容のレベルの調整が難しい。	・ICTを利用して丁寧な授業を行い、演習問題を多く取り入れた繰り返しの学びと、より高度な問題に興味・関心を持ち、自主的に取り組めるようにするため、授業プリントや課題にレベルの異なる問題を配置し、知的好奇心をくすぐる。 ・数学が入試に必要な生徒には個別に指導を行う。	・課題提出率95%以上 ・学年末で成績不振者を出さない。 ・自主的に取り組める課題を準備する。	・課題の提出率は95%以上だが、提出しない生徒は指導してもなかなか改善がされずそれが成績不振にもつながっている。効果的な指導を工夫してしていきたい。 ・意欲の高い生徒は、準備した課題に自主的に取り組んでいる。	B	・課題の提出率は95%以上であった。 ・考えさせる事を大切に授業を進めている。なかなか難しいが、中学の頃より数学の苦手意識は減っているようである。 ・自主的に問題に取り組む態度が身につけている生徒が増えている。	B
	理科	・実験・観察などは積極的に取り組むが、座学になると消極的な生徒が多くなる。 ・苦手意識が強い生徒が多い。	・実験・観察などの時間をできるだけ多く取り入れたり、ICTを活用した授業を取り入れたりして積極的に取り組めるようにする。	・授業理解度80%以上。 ・成績不振者を出さない。	授業理解度86.6%で80%以上 1学期の成績不振者は0人	B	授業理解度1~3学期86.5%で80%以上 3年生の成績不振者は0人	B
	保健体育科	・自他の課題には気づいているが、解決に向けて思考し、行動することができていない。 ・早く集合は出来ているが整列はできていない。	・生徒自ら練習計画を立て、技能向上に向けた取り組みができる生徒を育成する。 ・教員の指示なしで行動できる態度を育成する。	・課題を見つけ、計画的な実践を通して、自らの技能の上達に意欲を持ち、運動の楽しさや喜びを味わうことができる。 ・あいさつがきちんとでき、はやく整列し、授業時間が確保され気持ちよく行うことができる。 ・重大事故ゼロ。	・課題には気づいているが、取り組みへの工夫が少し足りない。より高い技能を身につけてもらいたい。 ・早く整列できるようになった。 ・重大事故ゼロ。	B	・課題を見つけ取り組んでいる。しかし、より上を目指しての思考、取り組みにはつながらない。今後の課題である。 ・早く間隔を取り、整列できる。 ・重大事故ゼロ。	B
	英語科	・昨年度2年生1名が全商1級に合格したものの、2級の合格者数はやや減少した。一方3級の合格者数はここ数年堅調に推移し、合格率も高い。GTZの推移からもここ数年、基礎学力の定着はある程度はかかっている。上位級合格者の数を増やすことが課題。 ・考査の平均点は全学年ともに60点を超え、適正に実施されている。不登校や課題の未提出、授業への取り組み姿勢の問題など、基本的な部分で赤点を出さざるを得ないケースは未だ存在する。	・全商英検各級の合格者の増加とGTZの数値の向上を目指し、授業や補習での取り組みを改善する。 ・課題を期限内に提出する指導をより推し進める。 ・ICT活用も本格化したことを受け、より主体的で深い学びを念頭に置き、生徒の想像力や思考力を刺激しながら、言語運用力・異文化理解、読解力、情報収集能力など多様な側面から自発的、能動的姿勢による学習を促す。	・基礎学力が定着している。 ・課題の期限内提出率が向上する。 ・全商英検2・3級の合格者数が昨年を上回る。また全商英検1級の合格者が複数名いる。 ・考査平均点が60点オーバーになる。(ただし科目の到達度によっては結果はそのかぎりではないことも予想される。)	・「全商英検」の結果はこれからであるが、2・3年生の実力診断テスト結果からは、どちらも基礎学力の伸長傾向がやや見られる。 ・考査平均点は1学期を終えた時点で目標をクリアしている。	B	・「全商英検の合格率」は、3級が例年並み。2級はここ数年の難化傾向の中、1年生に合格者が2名出るなど、次年度へ向け期待が持てる。実力診断テスト結果も併せ、一定程度基礎学力の定着は成されている。 ・課題の提出率は各教員の努力もあって向上した。 ・考査平均点は卒業考査でやや下回ったものの、それ以外は目標をクリアできた。	B

令和4年度の具体的な学校経営目標・計画

岡山県立玉島商業高等学校

(A:目標を上回った B:ほぼ目標どおり C:目標を下回った)

具体的な施策	関係分掌	現状（昨年度末の状況）	具体的計画	今年度の達成基準	自己評価（中間）		自己評価（最終）	
					達成状況	評価	達成状況	評価
	家庭科	・被服製作の経験が乏しく基本的技術が未熟であるとともに作品を完成させた経験が乏しい。 ・班で協力しながら、自主的、主体的に活動できない生徒が多い。 ・幼児と触れ合う機会が少なく、子どもに対して理解が乏しく苦手意識を持っている生徒が増加している。	・実習において、各班に部分見本や、iPadを準備し、製作方法を確認し、協力しながら作成できる環境を作り、各自が意欲的に作品作りに取り組めるよう指導する。 ・幼稚園実習準備過程で、生徒主体で、企画・準備できるようiPadを準備し児童文化財等の情報収集がしやすい環境を作り、意欲的且つ主体的に幼児とかかわろうとする態度を育てる。	・自己評価において、主体的に実習に取り組み、作品を完成させることができた …85%以上 ・幼稚園実習において、各クラスオリジナル出し物2つ、手作りプレゼント1つ作成し、持参する。	・被服実習では、iPadを使っている動画視聴や説明や部分見本を準備して取り組ませた結果、多くの生徒が主体的に取り組む完成させることができた。(90%) ・生徒は授業や避難訓練で、幼稚園児を身近に感じている。制限がなければ、12月に幼稚園実習を実施したい。	B	・3年生では2年ぶりに幼稚園実習を実施。各クラス毎に子供お楽しみ会を企画・実施すると同時に手作りおもちゃを製作し、園児にプレゼントした。遊びを通して園児と積極的に交流することができた。自己評価…積極的に参加できた(98%)	A
	商業科	・1年生は、商業科目を学んでいなくて、ビジネスの基礎基本が身に付いている。 ・2年生は、昨年度、「総合的な探究の時間」（玉ナビ）で、キャリア探究に取り組んだが、インターンシップが中止になった。 ・3年生は、「課題研究」の各講座で意欲的に探究活動を行った。成果物等も充実し、進路実現の一助となった。	・1年生：「ビジネス基礎」「簿記」「情報処理」の授業を意欲的に取り組ませるとともに、ビジネスに関する基礎的な知識やマナーを身に付けさせる。また、「ビジネス基礎」の授業で、地域の課題や魅力を学ぶ機会を設ける。 ・2年生：「玉ナビ」を有効に活用し、職業理解、インターンシップ、地域の社会人とのトークセッション、ロードマップの作成等を行い、徐々に将来の自分を思い描くことができてきた。また、自己PR文の作成や志望理由書の作成等にも取り組み、進路実現の準備に意欲的に取り組んでいる。 ・3年生：「課題研究」に意欲的に取り組ませる。内容を「調査、研究、作品制作、実習、職業資格取得、探究」とし、担当で取り組みを充実させるとともに、実践・発表を通して、プレゼンテーション能力・社会人基礎力を身に付けさせる。	・1年生：授業に意欲的に取り組み、ビジネスに関する基礎的な知識やマナーが身に付いている。また、「ビジネス基礎」の授業で、地域の課題や魅力を学んでいる。 ・2年生：「玉ナビ」を有効に活用し、職業理解、インターンシップ、地域の社会人とのトークセッション、ロードマップの作成等を行い、徐々に将来の自分を思い描くことができてきた。また、自己PR文の作成や志望理由書の作成等にも取り組み、進路実現の準備に意欲的に取り組んでいる。 ・3年生：「課題研究」に意欲的に取り組むとともに、探究活動および実践・発表を通して、プレゼンテーション能力・社会人基礎力が身に付いている。	・1年生：iPadも活用し、授業に意欲的に取り組み、ビジネスに関する基礎的な知識やマナーが身に付いている。「ビジネス基礎」の授業・夏課題で、地域について学ぶ機会を設けることができた。 ・2年生：1学期の「玉ナビ」で、職業理解、インターンシップに取り組むなど、進路実現の準備、将来の自分を思い描く準備ができてきた。 ・3年生：「課題研究」の各講座において探究活動に意欲的に取り組んでいる。実践や発表を通して、プレゼンテーション能力・社会人基礎力も身に付いている。	B	・1年生：iPadも活用し、授業に意欲的に取り組み、ビジネスに関する基礎的な知識やマナーが概ね身に付いた。「ビジネス基礎」の授業・夏課題で、地域について学ぶ機会を設けることができた。 ・2年生：「玉ナビ」で、職業理解、インターンシップ(8月・12月)、自己PR文・志望理由書の作成等に取り組む、進路実現の準備、将来の自分を思い描く準備ができてきた。 ・3年生：「課題研究」の各講座において探究活動に意欲的に取り組むことができた。実践や発表を通して、ほとんどの生徒がプレゼンテーション能力・社会人基礎力を身に付けることができた。	B
3 成長が実感できるキャリア・パスポートの活用と将来を見据えたキャリア教育を充実させる。	進路指導課	・就職内定率(学校推薦)100%を達成することが出来た。 ・進学では、国公立大学1名が合格することが出来た。 ・進路講演会や各種進路ガイダンスを企画実施した。	・キャリア教育を系統立てて計画実施する。 ・基礎学力の向上を目指し、SPI学習や小論文対策に積極的に取り組むよう指導支援する。 ・進路情報の収集に努め、企業訪問や入試説明会に積極的に参加し、適切な情報を生徒保護者に伝える。	・就職内定率(学校推薦)が100%になる。 ・国公立大学・難関私大に5名以上合格する。 ・SPI学習や小論文指導に80%以上の生徒が参加している。 ・進路講演会や進路ガイダンスを計画的に実施する。 ・企業訪問へ60社以上訪問、入試説明会へ20校以上参加する。	・企業訪問や入試説明会は必要最低限の参加に限定した。 ・学校斡旋での就職希望者は56名で、現在応募書類送達準備中である。 ・国公立・難関私立大学、看護系を目指している生徒が、夏休みに英語補習や小論文補習・模試を受けている。	B	・就職内定率100%に向けて最後まで頑張った。 ・障害者雇用対象の生徒への対応も、大きな問題もなかった。 ・コロナの影響で県外への受験が減ったが、目標は達成できた。	A
	1年団	・高倍率を勝ち抜き入学しているため、入学できたことに満足し、希望と意欲を持っている生徒が多い。	・キャリア・パスポートやiPadを有効に利用し、早期より3年後の進路を意識させる。 ・定期考査に対して、家庭学習時間を記入させ、計画的・自主的に勉強に取り組むよう指導する。	・希望進路についてしっかり調べ、考えている。 ・考査期間中の平均学習時間が120分以上である。	・iPadを利用して資料を配信して夏休み中に進路について調べたり考えたりするきっかけとなるようなプリントに取り組ませた。 ・1学期の考査期間中の平均学習時間が140分であった。	B	・コース選択や担任面談を通して進路についてよく考え、進路ガイダンスにも意欲的に取り組んだ。 ・考査中の平均学習時間がだんだん増加しており2学期期末考査では155分であった。	B
	2年団	・2年次スタートの進路希望調査で、進学74人(大学26・短大8・専門4)、就職66人(公務員8)・未定3名となっている。 ・1年次で、全校集会で年度当初の説明、2学期の中間評価、3学期に最終評価を計画的に実施しているが、将来を見据えている生徒は少ない。	・総合的な探求の時間(玉ナビ)で、自己理解と職業調べを通して、将来設計を立て進路実現に向けて準備を始める。 ・7月実施のインターンシップに多くの生徒が参加し、勤労体験を通して職業理解を図る。 ・キャリア・パスポートを計画的に記入させる。	・総合的な探求の時間から自己理解と職業調べができる。 ・将来を見据えた進路選択の準備を行うことができる。	・総合的な探究の時間(玉ナビ)を計画的実施できた。 ・インターンシップに向けて事前指導として「マナー講座」の講演や事後指導として礼状作成などができた。	A	・ほぼ年間計画通りに総合的な探究の時間(玉ナビ)を実施することができた。 ・進路ガイダンスや卒業生の話を聞く会などを通してより将来について考え成長に繋がっていくと思われる。	A
	3年団	・進路実現に関しては、進路ガイダンスの機会などを通して、少しずつ進路意識も高まってきている。 ・昨年は、年度当初、2学期中間、年度末等に、キャリア・パスポートを記入させ、振り返りと今後の計画を立てることができた。 ・キャリア・パスポート記入が、その後の活動に有効に生かされていない生徒が少なからずいる。	・今までの高校生活を振り返らせるとともに、今後の活動(学習・部活動・諸行事等)へ繋ぐことができるよう、キャリア・パスポートの活用を創意工夫する。 ・キャリア・パスポート記入を通して、自己PRや面接内容等に有効活用させる。	・キャリア・パスポートを有効に活用することができる。 ・キャリア・パスポートを活用して、自己PRや志望動機等を考えることができる。	・夏休みを中心に、自己PR・志望動機等を考えることができた。 ・キャリア・パスポート等を活用し、面接内容について準備することができた。	B	・F祭など行事全般でクラス内での役割分担ができ、各自が十分に役割を果たし成功裏に導いた。 ・課題研究発表大会に向け、パワーポイント等を作成し、プレゼンテーション能力向上を目指し準備している。	B
4 教師力をアップし学習活動や部活動、ホームルーム活動など、生徒の成長が実感できる環境を整える。	学力向上委員会	令和4年度入学生から新教育課程となりシラバスの完成、授業改善と評価が課題である。また、教員の授業におけるICTを活用した授業展開と生徒一人一台端末の活用が求められる。	・学力向上委員会を定期的に開催し、R6年度末にシラバスの完成を目指す。 ・共有ドライブに授業力アップにつながる情報を保存し、情報提供を行う。 ・学力向上委員がICTを活用した公開授業を行い、学期末に教員研修を行う。 ・研修への積極的な参加を促す。	学校自己評価アンケート項目(肯定度) 「学校は、ICTの活用・グループ活動・発表などを取り入れ魅力的な授業を行っている。」 生徒(83.0%)保護者(83.0%)教職員(90.0%)	1 学力向上委員会 1学期3回実施 2 学力向上委員会メンバーがICT活用推進リーダー養成研修に参加し、ICTを活用した授業の研究を行った。 3 ICTを活用した授業の実践発表会(教員研修会)を開催。	B	学校自己評価アンケート項目(肯定度) 「学校は、ICTの活用・グループ活動・発表などを取り入れ魅力的な授業を行っている。」 生徒92.6% 保護者92.8% 教職員100.0%	A
5 特別活動や部活動、社会貢献活動など生徒が活躍できる機会を増やすことにより、社会規範を身に付けさせ社会人基礎力を育成する。	生徒課	・部活動では多くの部が目標に向かって協力し、活発に活動している。 ・県大会出場を目指し活動する部が前年度より増加している。 ・ボランティアへ多くの生徒が参加し、経験を通して助け合う心が養われている。	・部活動に積極的に参加させ、ミスマッチな部活動なら早期に変更させる。部活動の入部率が95%を維持する。 ・ボランティア活動への参加希望は増えてきているが、機会があるかどうか、少ない機会も多くの生徒の参加を呼び掛けていきたい。 ・委員会やクラス係で一人一役として活動させる。 ・あらゆる場面で、あらゆる経験を通し、社会規範を身につける取り組みをする。(学校行事・学年行事・部活動・ボランティア・社会貢献活動等)	・部活動では、入部率は近年高くなっている。退部後の再入部への声掛けがあり、退部した生徒の再入部が多い。部活動の入部率が95%を維持する。 ・今年度も県大会以上を目指し、各々が活動をする。 ・ボランティア活動は興味を持ち活動する生徒が増えている。コロナ禍であり状況を把握しながら進めていきたい。 ・委員会の活動やF祭などあらゆる面が経験であり、多くの取り組みをしていきたい。	コロナ禍で部活動・生徒会行事・ボランティアも十分な機会がなく生徒も不完全燃焼の状態であると思う。今できることを考え、今できることに取り組んでいきたい。いまだからこそ出来る新しい取り組みを期待したい。 部活動・ボランティア・地域への参加はコロナで不十分であったが、できるチャンスを生かし活動した。	B	昨年に比べ、大会等も開催され生徒たちは多くに経験を積むことができた。未だ制限もあるが生徒も対応して取り組んでいる。入部率は近年高く推移している。今年より来年にもう一つの経験を生徒へさせていきたい。 ボランティアへの参加はコロナ禍で参加が難しい状況であったが、積極的に参加できている。	B
	総務情報課	昨年度はオープンスクールへの参加が536名参加があり、入試倍率が大きな課題であったが、12月の希望調査で1.46倍の倍率があり大幅に目標倍率を上回った。来年度は作陽高校が玉島に開校されるため大きな転換期になる。 ・出前講座 6回実施 ・学校説明会 4回実施 148名参加 ・オープンスクール 536名参加 ・広報誌 1回(訪問は3回)を各中学校に配布 ・図書平均貸出冊数 集計無し ・入学者募集状況 一般1.48倍 特別2.70倍	・出前講座 10回実施 ・学校説明会 4回実施 100名参加 ・オープンスクール 400名参加 ・広報誌 3回(訪問は5回)を各中学校に配布 ・図書平均貸出冊数 10.0冊 ・入学者募集状況 一般1.20倍 特別2.20倍	・出前講座 8回実施 ・学校説明会 4回実施 100名参加 ・オープンスクール 300名参加 ・広報誌 3回(訪問は3回)を各中学校に配布 ・図書平均貸出冊数 10.0冊 ・入学者募集状況 一般1.20倍 特別2.20倍	オープンスクールの参加も第一回が310名の参加があった。当初目標は上回りそうであるが、昨年より42名の減少であった。 近隣に作陽高校の移転があり、入試倍率が本年度の大きな課題であるため、それに向けて今後もコツコツと対応していきたい。	B	オープンスクールの参加が469名の参加があり、入試倍率が本年度の大きな課題であったが、12月の希望調査で1.0倍の倍率であった。出前講座15回、学校説明会132名参加、学校訪問3回と入試倍率以外は目標をすべてクリアできた1年であった。	A
	1年団	・義務教育が終わり、高校入学したばかりで社会人基礎力は身に付いていない。 ・半数近い生徒は入部したい部活動が決定しているが、決定していない生徒も多くなる。 ・特別活動と社会貢献活動について把握していない。	・遠照山登山や体育祭・文化祭を通して、他者と関わり自身の役割を理解させクラスで協力をさせる。 ・委員会やクラス係で一人一役で活動させる。 ・部活動に積極的に参加させ、ミスマッチな部活動なら早期に変更させる。 ・ボランティア活動の意義を伝え、積極的な参加を促す。	・学校行事の感想文の内容が肯定的である。 ・委員会や係の仕事や責任を持ってきちんと行う。 ・部活動の入部率100% ・全員、ボランティア活動に少なくとも一回は参加する。	・各行事にまじめな態度で臨み、肯定的な内容の感想文を書いている。 ・部活動入部率は100%で、熱心に活動している生徒が多い。	B	・体育祭では、各クラス試行錯誤しながらも個性ある応援ができた。文化祭でもよく協力し、いいアトラクションを創り上げた。 ・部活動では熱心に活動している。退部した生徒も若干いるが、新たな部に入部するよう指導している。	B
	2年団	・部活動加入率が1年次の最終では95.8%であったが、途中で部活動を変更したり、部活動へ参加していない生徒が数名いる。 ・1年次の社会貢献活動(遠照山登山)では、行事が中止される中、全員が参加して貴重な経験をしている。 ・F祭も、例年とは内容を規模縮小したものであったが、クラスで協力して取り組み達成感を味わっている。	・充実した部活動や生徒会活動になるように指導・支援する。 ・7月実施のインターンシップに多くの生徒が参加し、就労体験から社会規範を身につける。 ・12月実施の社会貢献活動(良寛研究)に積極的に参加しボランティア精神を養う。	・部活動で中心的に活動する生徒が多く90.0%以上の加入率。 ・インターンシップと社会貢献活動に積極的に参加する。	・3年生の引退後、2年生を中心に各部で活躍している。 ・8月3・4日に44事業所で102名の生徒が無事職場体験学習(インターンシップ)を実施することができた。残りの生徒は12月に実施予定。	A	・2年生を中心に各部で活躍している。 ・8月と12月の2回でほぼ全員がインターンシップに参加することができたが2回とも先方の都合(コロナ感染対策)で実施できなかった生徒もいる。進路意識を持つきっかけになった。 ・12月の良寛研究では地元を知ることができた。	A

令和4年度の具体的な学校経営目標・計画

岡山県立玉島商業高等学校

(A:目標を上回った B:ほぼ目標どおり C:目標を下回った)

具体的な施策	関係分掌	現状（昨年度末の状況）	具体的計画	今年度の達成基準	自己評価（中間）		自己評価（最終）		
					達成状況	評価	達成状況	評価	
	3年団	・部活動でキャプテンを務めたり、生徒会活動総務に加わったりするなど自覚と責任持ち、中心的な立場を担う者が増えている。 ・F祭では、様々な制約に対応し、創意工夫が随所に見られた。 ・学年全体としては社会貢献活動ができていない。	・日々の学習や研究を充実させ、課題研究における講座内発表や全体発表会において、プレゼンテーション能力を発揮させ、充実した発表会にする。 ・学校行事や部活動学年行事等で、自分の立場を自覚し、計画実行でき、社会人基礎力を身に付ける一助となるよう協力体制を構築する。	・諸活動に関して、キャリア・パスポートに活動内容が記入できている。 ・F祭を成功することができる。 ・課題研究SDGs講座チームが、高協生徒商研究発表会で発表し、成果を上げることができた。 ・クラス内で一人一役を担い、自分の役割を実践する。	・F祭準備を中心に、各自の役割を十分に果たしている。 ・課題研究SDGs講座チームが、高協生徒商研究発表会で発表し、成果を上げることができた。	B	・F祭など行事全般でクラス内での役割分担ができ、各自が十分に役割を果たし成功裏に導いた。 ・課題研究発表大会に向け、パワーポイント等を作成し、プレゼンテーション能力向上を目指し準備している。	B	
6 生徒が安心・安全に過ごすことができる環境整備を引き続き推進する。	教務課	本校のゴミ処理におけるゴミ排出数量 令和2年度4,430kg/年 令和3年度4,740kg/年	「ペットボトルと個人ゴミの量を減らす取り組み」 ⇒マイボトル推奨活動と個人ゴミの持ち帰り運動を行い、定期的なアンケート調査を整美委員会で行う。	学校自己評価アンケート項目（肯定度） 「学校は、日々の清掃活動など校内美化に努めている。」 生徒90.0%以上 教職員90.0%以上 保護者90.05%以上 また、整備委員会アンケート項目の数値が毎回上昇する。	整備委員会を中心に、学校から出るゴミの年間総排出量を減らす取り組みを行う。 (現状) 4月 5月 6月 合計 R4 可燃物(kg) 260 250 430 940 不燃物(kg) 100 110 160 370 R3 可燃物(kg) 450 330 380 1160 不燃物(kg) 50 50 50 150 全校に呼びかけゴミに対する意識の向上を図り、ゴミステーション当番を通じて適切な分別の指導を実施した。 定期的なアンケートの実施と結果の分析・報告を行う。	B	学校自己評価アンケート項目（肯定度） 「学校は、日々の清掃活動など校内美化に努めている。」 生徒85.2% 教職員95.7% 保護者92.0% 第3回整備委員会アンケート（2月末）	B	A
	保健体育科	・施設・器具の準備、片付を自ら率先して行うことができる生徒がまだ少ない。	・日々、再々にわたり安全、環境を整えることを意識して活動できるようにする。	・授業が始まる前に準備が完了し、安全に授業が実施できている。	生徒は積極的に行動し、始業までに集合が完了している。安全に授業ができています。	B	生徒は主体的に取り組み、始業まで道具等準備し、集合が完了している。安全な環境で授業ができています。	A	
7 若い教員が参画しやすい会議の持ち方を工夫するなど、協働する意識が向上する職場を推進する。	1年団	・前年度までのあり方を踏襲して計画し、提案することが多い。	・計画段階で若い先生方の意見を聞いたり、会議で発言を求めたり等工夫する。 ・若い先生方が活躍できる場を増やす。	・コミュニケーションをしっかりと、協力しあう職場となっている。	・学年団会議だけでなく、日頃から情報や意見を交換し合い、協力体制で生徒の指導にあたっている。	B	・情報交換を大切にし、協力体制のもと生徒指導にあたることができた。	A	
	2年団	・時間割の中に多くの会議を設定し、放課後にならないようしている。	・情報機器のツールを活用し、事前に検討事項を掲げ、それに対して全員の意見をまとめ、集約した意見を元に対面会議の実施。	・時間の有効活用ができる。 ・全員の意見が把握でき会議が有効になる。	・情報機器を活用して、朝礼伝達事項を共有できている。事前に情報提供し効率的に会議に取り組めた。	B	・情報機器を活用して、朝礼伝達事項を共有ができた。 ・事前に情報共有し、実際の行事等では協働がまずまずできた。	B	B
	3年団	・運営委員会など、多くの組織がベテラン中心である。 ・ICT活用など、若手中心の活動や会議が増えている。	・組織の中に年代別の人選を推進する。 ・少数のグループを作り、若手教員の悩みや疑問等を協議解決する場を設ける。	・若手教員を含め教職員の協働体制が構築される。 ・職員室内で大きな声であいさつができるようになる。	・毎朝、4担任を中心に、進路関係など情報交換をしている。 ・挨拶はお互いできています。	B	・学年団会議を初め、様々な場面で情報交換に努めることができた。 ・生徒指導においても、定期的な検査や特別指導等で計画的に指導することができた。 ・挨拶はできています。（大きな声では今一歩）	B	
8 学校教育におけるICT活用の推進と言葉が通う職場づくり。	GIGAスクール推進室	昨年度の1年間で、校務でiPad、Google workspace for educationを使うことに対する意識が高まりつつある。	○校務のデジタル化・ペーパーレス化のさらなる推進 ・校務の中でデジタル化できていないものを洗い出し、デジタル化の定着を進める。 ・教員への情報発信とフォローの充実。	・コピー用紙使用量を対前年度比の90%とする R2合計:381,493枚 R3合計:349,457枚	R3(7月まで):157,183 R4(7月まで):154,026 対前年度比:97.9% ・前年度並みの印刷量が継続している ・室としての取り組み・呼びかけの必要性	B	R3(12月まで):227,097 R4(12月まで):282,105 対前年度比:101.81% ・iPadの活用により、生徒向けの印刷物は減少していると考えられる。校務での削減を考えなければならない	B	
	国語科	・グーグルクラスルームを使用して、課題の指示や考查範囲の連絡などを行った。 ・3年生の国語表現では新聞作成の記事収集のため、貸し出しiPadを使用させ、本だけでは得られない情報を得て新聞作成に取り組みむことができた。	・本年度も3年生の国語表現では貸し出しiPadを使用して、記事の収集に取り組ませる。 ・1年生では便覧をクラウド版のものにしたため、授業中に古典の背景となるものを調べさせたり、古語の意味をiPadで調べさせたりし、しっかり活用させる。	・iPadを使用して、インターネットや便覧から情報収集し、記事にしたり学習の参考にしたることができるようになる。	・1年生ではiPadを使用してクラウド版便覧を閲覧するほか、「言語文化」のうち漢文の反復練習、「現代の国語」での発表などに取り組みむことができた。	B	・1年生ではクラウド版便覧やクラウドのフリー辞書などの閲覧、「クラスルーム」を通じての国語科からの連絡や教材配布などによりiPadに親しんだ。 ・スライドを利用したプレゼンテーションや課題の提出を行い、iPad利用技術が向上した。 ・漢字の練習や課題の反復学習、授業のメモなどにもiPadを称している姿が見られ、身近で便利な道具として利用している。	B	B
	地歴公民科	・昨年度2・3年生はBYODで1人1台端末を活用した授業を多く実施済み ・1年生は1人1台端末の初年度	・昨年度2・3年生は引き続きBYODで1人1台端末を活用した授業を実施 ・1年生は資料集をクラウドで利用・GoodNoteを活用した授業を実施	・年間を通じて授業公開の実施ができている（授業公開週間外でも実施し教職員への積極的なアナウンスを行う）	・授業公開期間以外でも授業公開を実施しアナウンスした ・学年に合わせてICTを活用した授業を実施している（1年生:BYOD・2・3年生:BYOD）	A	・前期同様に授業公開期間以外でも授業公開を実施しアナウンスした（12/22は高教研地歴公民部会の研究授業を行う） ・授業でICTのさらなる活用ができています（県教委によるアンケートも地歴公民科は高数値）	A	
	理科	授業では、プリントを電子黒板などに投影して書き込んでいく形で使用していた。	今までのようにプリントの投影に加えて、iPadの機能を生かして授業を行っていきたい。	・授業で動画を流したり、HPなどで資料を紹介する。 ・クラスルームで解説の資料を配信する。	回数は少ないが、振り返りの動画を流したり、フォームでアンケートを行った。	B	中間期の取り組みに加え、実験に関連する動画を事前に視聴した。	B	
	家庭科	・昨年度、提示装置を使って夏休み課題発表を行った。	・夏休み課題等についてiPadを活用して調べ学習し、iPadを活用して発表させたい。	・クラスルームで課題を配信し、回収する。各自、クラスで発表する。	・クラスルームを使つての課題配信は難しくプリントでの課題とした。各自、提示装置を使用し、クラスで発表を行った。	B	手作り絵本作りや幼稚園実習の話し合いや準備段階において、iPadを使用し効率よく進めることができた。	B	
9 効率の良い働き方を意識する。 (残業時間:月45時間 2カ月平均80時間)	管理職	・特別目立つような超過勤務はない。 ・ミライムの打刻が適正にできていない。 ・教員間で話ができているが、業務の平準化ができていない。	・定時退校日等を設定し、勤務時間の適正化に努める。 ・教員間で声かけをして、業務の平準化を目指す。 ・ミライムの打刻を正確に行う。 ・組織をつくり、上手に動かす。	昨年度累計 360時間超 720時間超 45時間超が7月以上 19人 5人 12人 45% 12% 29% 今年度目標 40% 10% 20%	休暇の取得を積極的にしている。 ミライムの打刻を正確に行うようする。 目立った超過勤務はない。	B	今年度累計（1月現在） 360時間超 720時間超 45時間超が7月以上 15人 5人 11人 43% 14% 31% 目立った勤務超過はないが、目標達成とはならなかった。ミライムの打刻をきちんとするように引き続き声掛けをする。 休暇取得は積極的にしている。	B	B